

## 会議記録

会議名称		令和4年度健康スポーツライフ杉並プラン推進懇談会
日時		令和5年3月27日(月)午後6時00分～午後8時09分
場所		東棟6階 教育委員会室
出席者	委員	8名 松尾委員、高田委員、長崎委員、植田委員、杉尾委員、鳥井委員、野田委員、小寺委員
	事務局	9名 スポーツ振興課長、施設管理係長、事業係長、学校支援係長、施設管理係主査2名、施設管理係職員3名
傍聴者		0名
配付資料		<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>資料1 健康スポーツライフ杉並プラン推進懇談会運営要綱、委員名簿</li> <li>資料2 健康スポーツライフ杉並プラン スポーツ振興課が取り組む主な事業(令和4年度、令和5年度予定)</li> <li>資料3 健康スポーツライフ杉並プラン 取組状況</li> <li>資料4 健康スポーツライフ杉並プラン 指標の推移</li> <li>資料5 永福体育館におけるビーチコート設置と維持費の経緯と検証について</li> </ul>
会議次第		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 議題 令和4年度健康スポーツライフ杉並プラン推進懇談会について 計画事業の取組状況</li> <li>3 その他</li> <li>4 令和5年度懇談会開催予定について</li> <li>5 閉会</li> </ol>
<p>&lt;会議要旨&gt;</p> <p>1 開会</p> <p>○事務局 スポーツ振興課長から挨拶</p> <p style="padding-left: 2em;">事務局より資料1に基づき運営要綱の確認、委員紹介</p> <p style="padding-left: 2em;">※進行に当たっては委員の一人にコーディネーター役を依頼し、了承を得た。</p> <p>2 議題</p> <p style="padding-left: 2em;">事務局より資料2、3を説明。</p> <p>○委員</p> <p style="padding-left: 2em;">私から分からなかった箇所が1点。学校施設のさらなる有効活用で8ページに校庭の利用率が68.8%、アリーナが93.1%、交流ホールは16.1%で、登録団体数が68から77に1割方増えたことは分かったのですが、それ以外の利用枠数、利用率は前年から改善が見られないと良くないのでどのぐらい増えたという説明があるとわか</p>		

りやすいと思いましたがいかがでしょうか。

○スポーツ振興課長 まず、取組の前提としてモデル校となった高円寺学園では、利用者たちが集まって利用調整をする利用者団体協議会という仕組みがございまして、利用枠という考え方よりも、学校側から提示された時間をみんなで分け合うという調整をしていました。そのため、（この仕組みに代わる）4年度の利用枠を設けて予約抽選する取組と前年度の仕組みが違うので、比較ができないということでご理解を頂きたいと思います。

○委員 分かりました。もう一つ。学校運動部活動の地域移行は、新聞各紙を賑わせているところで1,700を超える市区町村もみんなどうするのと今、検討を進めているところです。いわゆる教育委員会のマターと言って教育委員会で中心になって検討することが多く、地域移行なのに、地域スポーツ担当課があまり入らない場合があったりしますが、杉並区はそうでなくて一緒に取り組んでいくというのがすばらしいと思います。

高円寺学園も5つの（運動）部があって民間委託の形で入って取り組むやり方もありますし、富士見丘中学校のような、総合型スポーツクラブのクラブ荻窪123と一緒にあって、既存のバレーやバスケット（運動部）ではなく、ゆる型スポーツの形でお願いしながら、部活動の地域移行を徐々に進めてはというやり方とか、そういうものを進められるという理解でしょうか。それとも別なやり方でしょうか。

○学校支援係長 まず富士見丘中学校で実施しているゆる部活は1年間行ってきたノウハウを4分区に広げることが、出来ればと思っています。

○委員 非常にすばらしいと思いますけれど、いろんな事例を考えて検討するというような理解ですか。

○学校支援係長 検討会では、はじめにどういう事ができるのかを話していきます。モデル的なものは、今のところ富士見丘中学校と高円寺学園です。今年度は高円寺学園の部員数が少なくて試合に出れなかった部活もありましたので、来年度は合同部活的なこともできればと思っています。

○委員 ありがとうございます。もう一点、すぎなみスポーツアカデミーは、日本スポーツ協会の指導者養成体系の変更があったので、もう資格取得の講座はやめようという話ですか。

○事業係長 日本スポーツ協会の資格とリンクする講習会はやめる代わりに、日本レクリエーション協会のスポーツ・レクリエーション指導者養成講習会とリンクし、そちらの資格は取れるようにと考えています。そのほか1コマで受けられるような、杉並区民が身近に学べる講座をいろいろやっていく構想になっています。

○委員 特に新しいのはレクリエーション協会の資格が、より幅広で1単位ずつ取れるという理解ですか。

○事業係長

はい。

○委員

中学校の部活動を地域に落とす考え方が進んで近い将来にできると思うのですが、指導者の育成というのはどうなっているのか疑問があります。今までは学校の教員資格を持っている先生が指導されていたことを地域に下ろしたとき、部活動というのは教育の一環だと思う。それが地域に丸投げされて、（受け継いだ）その人たちに教育的配慮がない、知識がない、技術がない。お持ちの方が指導してくだされば良いのですが、そういった指導者は見つけるのが大変だと思うので、指導者のことも併せて検討いただきたい。

○学校支援係長

指導者は他の自治体も人手が足りていないので争奪戦のような形になってしまうのではないかと思います。実際に中学校の部活動に関わっている、指導されている方が部活動の地域移行の際に、引き続き担っていただけたらというのもあるのかなと思いますので、その辺も含めて検討会で意見を聞きながら進めていきたいです。

○委員

サッカーのJ1ができた時に資格がないと教えられないと言われていた。あまり厳しくすると、ジュニアに指導ができない。単純に地域に下ろすといったときに、かつて問題になった少年野球の監督トラブルだとかへの対策を防ぐことも考えておかないといけない。文科系の種目と体育的な種目をトータル的に指導者の養成することを並行してご検討いただきたい。

○委員

いきなり地域に移行するという発想と、移行ではなくて地域のクラブ化をするという考え方もありますので、全ての種目を一気に移行するのは難しいだろうと。できるところから一種目、二種目あるいは学校を幾つか併せて、合同で一つの部の見るやり方もあるといういろんな考え方があります。

○委員

自分が地域で中学校の部活を見ている（指導者）なのですが、今の問題については区の支援課と話はしている中で、スポーツ庁が7年度までに地域移行を行うというような話を、国が緩やかにとこの間訂正しましたよね。

○委員

はい、しました。

○委員

ところが、東京都は7年までに行うと方針を出した。一番問題になっているのは、指導者集め、自治体の苦慮、生徒の費用の負担、部活動を頑張っている先生たちはどうするか、最近、新聞に特集されています。一概にこういう場で、こうしたらいいという解決策はなかなか出ないと思う。地方では地域の団体が廃校になったところを拠点に活動するという事を成功しているが、都市部については、指導員が不足している。資格の問題で例えば日本スポーツ協会の資格も更新が結構ハードルが高くなってしまっていて大変です。杉並区独自で修了してもらった人を充てるとか。

また、問題になっているのが学校開放で、今自分は学校開放の委員なので、登録団体から指導者としてやってもらえるかという話が役員会の中で区からくるが、現実的な問題として、自分が趣味でやっ

ていて、指導者としてそこへ行ってやるというのはなかなか難しい。また、高齢者が多い。若い人はいても仕事の余暇で自分のためにスポーツをやっている。さざんかねっとに学校開放をシステムに組み込む話も今やっていますが、実際さざんかで個別の学校がそぐわないというのが結構あるので、今調整しています。あくまでも高円寺学園は一つの事例（モデル校）ですので、こういう形になればいいというのが区の方針だと思う。

部活の問題については、高円寺（モデル校）方式で民間にお願いしたら費用負担は国か東京都か区かという話になる。全校展開したらたくさんのお金がかかる。じゃあ、ボランティアにするかということ簡単にはなかなかいかない。

○委員 学校の部活動で私はこれを言っておきたいという方もいらっしゃると思いますので、もうちょっとだけその時間を頂いて、以降は学校の部活の話は一応そこまでにしましょう。

○委員 来年度に関しては富士見丘のゆる部活をモデルに広めていく話をおっしゃっていたと思うのですが、ゆる部活ってそもそも富士見丘のエリアで競技として高いレベルのスポーツをやりたい子が少ないエリアだったから、ゆる部活でやったと学校長から聞いている。杉並区全体がそういうエリアではないと思うので、部活で全国を目指したい人たちはどういったアプローチをしていくのかというのがお聞きしたいです。

○学校支援係長 競技としてしっかり取り組みたいというところは、なかなか地域移行は難しいので、じっくり時間をかけていくしかないと思っています。先ほどのゆる部活は、部活には入らないが体を動かしたいという生徒が、各学校にいると思いますので、生徒たちに運動の場の提供ができればと思っています。

○委員 それこそスポーツクラブにお金を払って、力を入れてスポーツクラブに参加するということですかね。

○学校支援係長 そうですね。地域移行になった時には、そちらに参加しているご家庭というか生徒もいると思います。

○委員 ですよ。そうしたらお金のない子どもたち、ご家庭は、参加ができなくなる。

○学校支援係長 そうですね。差がつくのは問題があるかなと思います。

○委員 私 25 年以上中学の野球部をやっていますけども、集まってきますよね。富士見丘中が（ゆる部活）をやったときに当時の顧問から相談を受けて野球部を潰さないでくれと学校に交渉したけど、結局今の形になった。富士見丘中へ行く子が例えば西宮中に来るとか、野球をやりたいので高井戸中に行くという形になっています。やりたい子はたくさんいます。ただ、緩いほうでやりたい子もいるわけですから、それはそれでいい。やりたい子はもう少子化になっているので合同でこっちに来たり。今の富士見丘中の形が広がるとは正直言って考えにくいです。

○委員 競技的にやりたい子をどうやってカバーする地域移行ができるかという話と、一方で、経済格差がスポーツ格差につながることは見過ごせない論点なので、それは杉並区では行わないでくださいというご指摘でした。

○委員 杉並のテニス部は13校あって、日本でも一番硬式のテニス部が多い区です。指導者の役割として中学の多感な子どもたちとの付き合い方がものすごく難しい。子どもたちのスポーツではなく家の問題とかを、先生ではなく指導者のほうに話が増えてしまうという事例が結構ある。技術的なことを指導するだけなら、まだコーチという考え方でいい。ただ、部活の意味合いというのか、教育なのかどうかというところが、整備されていない中で指導者の役割、スキルというのがどこまで求められるのかが分からないので、引いてみています。しっかり整理されて、これからの部活の姿を親御さんたちにも理解してもらわないと、いわゆる昔の部活のイメージをそのまま持ってくる。もしくは、子どもたちの定時後の時間を潰すために行ってもらおうような、温度差がある中では、なかなか難しくその辺を含めて検討が必要という話です。

○委員 学校教育は教育課程の問題と教育課程外の部活動と両輪になってきましたから、両輪の部分を完全にやめるということで、果たして教育は十全なるものになるのかという問題。一方で、地域連携という形でガイドラインでも柔らかくいろんなやり方がありますよとしたなかで、学校の部活動ではなく地域クラブです、というやり方もある。教育的な理念、スポーツの価値をどういうふうに位置づけて、杉並区での地域移行は理念をしっかりとしないとみんな引き受けられないですよ。子どもも家庭の悩み事が多感なので当然あっていいわけで、それが地域の指導者にいくと、どうしたらいいか分からないという話に当然なる。理念の整理をしていただくというご指摘でした

一旦学校の運動部活動の問題はここで置かせていただき、それ以外の論点をご指摘頂ければと思います。

○委員 中学校は、利用登録した団体で来月いつにしましょうかという調整会議を毎月するのですが、小学校は副校長先生と登録した団体が来月の予定を直に調整している。小学校は地域の児童優先で、大人は二の次で夜という雰囲気になっている。例えば、うちのミニバスは都大会に行っても強かったりするが、火、木と定例で使用している。それがこの2時間枠になるのでしょうか。

○スポーツ振興課長 これ（有効活用の実績）は今はいくまでも高円寺学園だけの話です。

○委員 はい。

○スポーツ振興課長 地域によっての利用実態はまちまちで調整の仕方も画一的ではないです。少年団体が優先してその学校に通っている子供たちが体を動かす場が提供されているというような実態をきちんと調べて、有効に活用できる方法を探っていくことを、5年度からまた取り組みま

す。

○委員

分かりました。例えば地域を挙げて強くしたい気持ちもありますし、時間が削られちゃうとその子たちはどこに行くのかと思う。箱がないと利用できないので、私たちより上の方たちはみんな民間施設に行く。そこでお友達をつくって外のほうに行ってとか、あと小中学校は借りにくいので、利団協に入らないといけないからそこでとか、そのような利用の仕方をしている印象。一つには先ほど言ってくださっていたユニバーサルタイムという取組を区分けして、例えば久我山、富士見丘辺り限定というふうにイベントを組んでくださると（学校が）身近に感じるし、ちょっと遠いところだと、目もくれない。

○スポーツ振興課長

はい。そのことに関して言えば、資料の8ページの表があります。二つ目に地域のスポーツ振興事業を高円寺学園でも実証でやっています。地域に合った区が提供するイベントだったり、講座だったり、適しているのかというようなことを検証していく考えです。

○委員

今の高円寺学園の利用時間の変更に関して、実態を確認していただきたいと思っています。利団協で決めているところは昔からいる方々と顔見知りの方々は入りやすいけど、新参者は入りづらい。逆の立場になると定期的にやらないと習慣化しないし、同じ曜日、同じ時間にやるということも大事なので、両方の立場を考えると難しい。その中でも一番ベターな形で、利用できるシステムにしたい。2時間に関してゴールボールだとコートを作らなきゃいけないので短いです。ゴールボールを2時間でやると、15分で準備して、実際にゴールボールができるのは40分ぐらい。40分動いたら、片づけと着替えとなり、スポーツを楽しむというところまでいかない。

○委員

10月23日のユニバーサルタイムが随分参加者が多かった。

○委員

スポーツをしたいけどどうしようという方々もいる。視覚障害の方に限る話にはなるのですが、普段杖を持って歩いているので、手を振って歩く経験を久しぶりにしたという方もいる。そのレベルの方々も参加ができる場所なので、すごくいい機会になっている。さっきふと思ったのは、参加者同士の横のつながりが増えれば良いなと思った。

○事業係長

まずこれは場づくりとっておりますので、「〇〇教室」ではなく、このような空間づくりとっています。空間の中でどう展開していくか。今のところ個人メニューを中心にしている。ただ、スポーツの楽しさは、自分で何かにチャレンジするだけでなく、人と関わるところもあるので、どうやってプログラムに入れていくかは今後の展開として検討していきます。

○委員

すぐできる話じゃないのですが委員を含めて、目の不自由な方が荻窪の駅から杖をつかずに体育館に行ける仕組みは作れないか。今スマホを使ったいろいろな提案が出されている中で自立して動けるような電子、ITを使った形でも良いと思う。昔、私もそれらに関わっていたので、実験を世田谷でやったことがあって、なかなかお金

の面とか難しいですけど、駅から降りたら指示を受けながら自分で歩いていけるような仕組みなどできるだけ自立した形で障害者の方も駅に自分で集まってこれるような姿がいいなと思いました。

○スポーツ振興課長 ユニバーサルデザインの画期的な最終型かもしれないですね。

○委員 委員の皆さんの地域密着のご経験と杉並区の職員の皆さんのユニバーサルタイムの取組は素晴らしいなと感動しました。誘導サポート、理学療法士、看護師を常駐させたりというのは素晴らしい。参加者の方々が感想を発信するSNSの活用の仕方はされていますか。

○事業係長 公式動画のすぎなみスタイルというのがあり、1月のユニバーサルタイムの取材の様子が放映されて1万件のアクセスがありました。

○スポーツ振興課長 あと、3月1日のユニバーサルタイムについて読売新聞の取材を受けまして、明日の朝刊の都内版でユニバーサルタイムが人気ですという記事がでます。

○委員 参加された方とか例えばボランティアでサポートされた方とかのご意見の情報が拡散されるとやってみたいという方が増えるのかなと思いました。あと、他の委員がおっしゃったように、部活問題も含めスポーツをやって何がよかったのか振り返ったときに、ああ、やってきてよかったと思える場になってほしい。

アスリートはただ体を動かすだけではなくて、例えば何を食べたら強くなるとか、スポーツのイベントに行くと、次の日、筋肉痛にならないためにどうしたらいいとか、プチ情報をもらえるといい。障害がある方、ない方のイベントにかかわらず、情報がそこに行ったらもらえたとか、毎日続けたら、健診の数値がよくなったとか自分の実際の血となり肉となり、レベルは違ってもいいのかなと思います。

杉並はいろいろ情報を発信してくださる。私は地方の出身なのですが、地方に行くとき取り足取り事細やかに発信している。ただ、都会に住んでいるとそこら辺の情報が伝わってこないから、自分で検索して探さないといけない。杉並の情報の発信力で参加人数が増えて、スポーツの場に参加したという、メリットにつながってほしいと思います。

○スポーツ振興課長 参加した人の声という視点で情報発信をするまでは至っていなかった。来ることによって、どんなメリットが得られるのかということ併せて発信することも大事だと思いました。

○委員 区の職員の方、ボランティアの方、参加者のコミュニケーションの場にもなるかなと思います。実際に参加された方とコミュニケーションしていると参加された方も、杉並区の人とお話するきっかけになって、区役所に行きやすくなるとかの話になるかなと思ったりしました。

○委員 アカデミーの企画が工夫されて素晴らしい講師とカリキュラムなの

に残念ながら参加者が増えない。担い手をつくるという杉並のプランにずっとあるコンセプトがあって、細やかにフォローアップをしたりとか、つながりを持ってやっているのは、もっと区外に出していかないといけない。区民に知られるには、外から言われて気づくみたいなのところがある。杉並は先進的なことをやってると注目された。国なんかにもアピールしたほうがいい。さざんかねっとの改修という話があり、利団協を使っている団体にアカデミーに参加してほしいと周知できないかみたいなこともあるのですが、アカウントに利用許諾を取って、メールを配信するとかいうことが始まっていくのだろうと思う。アカデミーに参加しませんかと周知するバイパスを作ることが可能なので、そういう仕様を入れてほしいという話をしていかないといけない。もしできるなら、登録されている杉並のスポーツ指導者を書き込めるとインセンティブがあるとか。うちの団体には杉並でアカデミーを受けた受講生がいますとか。そういうことで認知させて売り込んでいくみたいなことをしたいと思う。山梨で1回取り組んだことがあるのですが、受験期の3年生に毎週火曜日の放課後に遊ばせる中学校の校長がいました。ストレスが溜まっている中、2時間好きに体育館を使わせてあげると勉強がはかどるという相乗効果があったが、正しい情報を与えて中学生が主体的にできることを目標とし、できないことを大人がサポートするという、部活のあるべき姿を忘れないほうがいいということがありました。

○委員

日本スポーツ協会の指導者に関わっていますが、国民体育大会というのがあって、監督はその資格を持っていないと参加できないというのがあった。これが広がっていき地域に下りていくと、地域の大会も資格を持っていないといけないみたいな話になる。保護者の方々にも納得いただける方に教えていただかないと、という問題が出てくる。そのときに、すぎなみスポーツアカデミーの受講をなさっていると安心してもらえるような形はできているわけなので、活用すると大きな力になる。

それから、障害者スポーツネットワークの推進とユニバーサルタイムは1年目としていい船出ができた。連携という名のただそこにいるだけになってしまってももったいないので、参加してくださった方には、それぞれの役割をちゃんと担っていただく。より役割を明確にしながら進めていただくとよい。そのときに、行政として民間の活力をどう活用できるのかという問題も出てきます。例えば、日野市は学校運動部活動の地域移行で、企業が中心に入っている。普通は一行政区として、民間の方が関わると平等性の問題がある。工夫として、日野市はスポーツ協議会という協議会が作られた。メンバーの一員として、行政、大学、民間も入る。事務局は民間がやっている。学校運動部活動の体育館の体育施設開放も一企業が入っているという。

○委員

杉並区のガイドラインで、土日の1日どっちかの活動にするということで、今の私のほうで野球部ですけれども、先生は関わらずに日曜日は地域でやる形にして保険も全部、別で入っています。道具については学校のものを利用している。大会があった場合には、学校事業だから学校の先生が来る。



事務局より資料 4、5 を説明。

- 委員 今、二つの指標がどういう形で推移したのかということをお示しいただいて、またビーチコートができたけれども、その活用、検証についてご報告頂きました。何かご意見、ご質問を含めてあれば承りたいと思います。
- スポーツ振興課長 ビーチコートは区民の健康づくりに役立ったのかということを検証して公表しました。今回このような形でホームページに掲載をしたのですが、区の内部のみで検証するだけではなく、公表内容に客観的で公平な立場で事実だけを掲載している視点になっているかご意見いただけたらと資料を出したところです。
- 委員 指定管理者による教室が 1.18 倍ぐらいになっていて、2,500 人まで伸びている。これが利用割合を高めているのではないかという指摘があった時にどう回答できるというのが、若干気にはなりました。
- スポーツ振興課長 区と指定管理者の協定の中でスポーツ振興事業として、普及啓発を図る意味合いもあって教室はやっていただく趣旨を盛り込んでいます。ただ、1万4,916 人の一般の貸切りがあることに対して 2,500 人程度ですので、利用率を高める数値までは至っていないと考えています。
- 委員 教室を意図的に行えば人数は増えるのではないかという質問に対して、そうではなく切り分けた形でご説明なさると分かりやすいと思います。もう一つが利用者からの声が、これは行政側が作為的に抽出したのではないかと言われたとき回答できない可能性があるのので、一般的な利用に対して、海がないところにビーチがやってきたことによる素足の感覚とか、けがない形での運動の多様性を学ぶことができたとか、そういう価値がきちっと見えるような形でご提示されると説得力が増すのではないかと第三者の意見として感じました。
- 委員 質問です。利用者というのは、個人利用というよりも団体利用が多いですか。
- スポーツ振興課長 はい。一般の方の団体利用と教室やイベント参加者の声と、あと、近隣の住民。
- 委員 指定管理者が開く教室への参加ということですか。逆に言うと利用団体って、結構な数の団体が利用しているのか、それとも限られているのかどちらですか。
- スポーツ振興課長 平成 30 年の 9 月当初は、利用団体はある程度限られていました。ビーチテニス、ビーチバレー、ビーチサッカーはおおむね一、二団体でほとんど使っていて、あとは使っていないところを幾つかの団体をご利用いただいている。ただ、普及啓発を進める中で、現時点では幅は広がっていて 50 とか 60 の団体が、貸し切りを利用している状態。種目も競技スポーツの幅が広がっていて、先ほどの 3 種目

以外にフレスコボールとかハンドボール等に利用の幅は広がっています。

○委員

ビーチだからできるスポーツの想像はつくと思うのですが、新たなことを砂の上でもやってみようというアイデアも出てきそうなので、障害のある方とかでも出てくるのかなと思います。ユニバーサルタイムをそのうち行いたいです。

○委員

ビーチコートがある区は3区しかない。大田区と渋谷区の宮下公園の上にある。わいスポとかスポーツフェスティバルもやったのですが、来た人が皆さん笑顔になって嬉々として駆け回る。皆さんに体験してほしいと思うのですが、永福体育館って杉並の一番外れなのでなかなか難しい。砂の面白さは区民の人にアピールしたいし、知ってもらいたいなと思います。

○委員

杉並区の小学校とか学校単位で連れて行ってあげたらいいのでは。砂の上でスポーツをしたことがあるとアピールできると良いと思いました。

○委員

行動変容ステージモデルを解析したので結果の共有です。有意差を見たときに今回コロナの影響で、実行間近タイプが落ちている傾向があって、前回、前々回と比べても、そのような結果でした。今回のデータは、65歳から69歳の方は比較的に落ちていないのですが、70代は激減してしまっていて、20代とかそれから40代ぐらいまでの数値も落ちている。もう一つ別の論文で75歳を過ぎるとスポーツを新しく始めないというデータもある。65から75ぐらいまでの間のアプローチが必要なときにコロナのような危機的状況があると反応するのは高齢者の方々。運動する人は運動する。ですが、やめていった人もいっぱいいる。今回の調査で見たらコロナをきっかけに75歳以上はスポーツをやめた人がまた戻ってくるかどうかというのは難しいのですが、100年時代の施策としてどうターゲットングしていくか。特に、チームスポーツを卒業して減らしたいです。今までお付き合いでやっていたのですが、これでやめますという人が増えている結果があるので、施策的にそういう方々にどう目を配っていくか。特にユニバーサルタイムのような事業がいいという意見もありました。身近で来てもらって、参加しやすい場を作っていたときに高齢の方も来やすい。どこの地区限定という話は自分に投げかけられているメッセージと受ける側が自分のことだと思いやすいので、小学校地区とかの施策をやっていく必要がある。

### 3 その他 (省略)

### 4 令和5年度懇談会開催予定について

○事務局

今まで進捗状況の報告の懇談会を年に1回実施していましたが、区の総合計画、実行計画が前倒して改定を予定しています。スポーツ推進計画においても、上位計画の変更に伴って、見直しを図るため6月以降懇談会を実施予定です。

### 5 閉会